

令和5年度 第3回 追分小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和5年10月30日（月） 13時15分から15時00分まで
- 2 開催場所 浜松市立追分小学校 会議室
- 3 出席委員 松田 勝、松本 依子、小山 正博、大澤 一夫、内山 丈夫、村上 美代子、伊藤 隆之、今泉 るり子
- 4 欠席委員 なし
- 5 学 校 坪井 百合子（校長）、平野 直孝（教頭）、佐野 尚也（CS担当）
山田 公子（CSディレクター）
- 6 傍聴者 なし
- 7 会議録作成者 CSディレクター 山田 公子
- 8 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に確認を行い、松田会長より松本副会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

9 協議事項

- ・支援策の進捗状況と特色ある学校づくりについて

10 会議記録

司会の平野教頭から、委員総数8人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）授業参観の感想について

議長の指示により、会議に先立って行われた授業参観の感想について、委員からは以下の発言があった。

- ・外国語の授業を見て、昔よりも内容が難しく感じた。すべての子が理解できるのか、どこまでのレベルを求められるのか気になった。（今泉委員）
- ・どの学年も、以前より落ち着いていた。（村上委員）
- ・村上委員と同じく、全体としては落ち着いていた。しかし、どのクラスにも集中できない子がおり、明確に何がいけないのかをしっかりと伝える声掛けが必要だ。また、外国語の授業では、ローマ字と英語の混乱がないように使い分けの説明が明確に必要である。（内山委員）
- ・あるクラスでは、きちんと具体的な声掛けができており、子供たちはいい変化をしていた。言葉選びは大切である。また、ミシンボランティアの際、先生は説明をするときに全員がこちらに目を向けるまで待っていた。子供たちは周りを見て自分で判断し、集中していた。そういった自主性も方策の一つであると感じた。（松本議長）
- ・全体的には落ち着いていたが、先生の話をきちんと聞ける子と聞けない子がいる。その中で、ついていけない子を作らず、学級全体をまとめていってほしい。授業の中でどこまでできるのかという難しさもある。今後の方向性や推移をぜひ教えていただきたい。ただし、今回は参観という限られた時間の中での意見である。全体を通して見れば、違う意見となるのかもしれない。（小山委員）

・何か注意した際は、個人の反応や成長に応じて対応し、存在を認めることで子供たちは充実感と満足感をもって前に進めるのではないかと。心の中をすべて読むことはできないが、子供を理解した上での指導が重要である。それが子供たちの落ち着きにつながるものと考えます。(松田会長)

・他の委員と同意見である。ただし、短時間だけでは子供の成長具合など、判断が難しい。(大澤委員)

・一学期に比べて落ち着きは出たが、教室内ではまだまだ様々な問題がある。学校全体で、心身共に誰も傷つくことのないよう努力している。地域のみなさんや学校運営協議会の方々にもぜひ御協力いただき、一致団結して発展していきたい。(教頭)

(2) 議長の指示により、校長から、第二回学校運営協議会以降の学校の様子について説明があった。これは、前回の課題に対する改善策について、委員から寄せられた意見を踏まえた上で、どのような活動が展開されたかを示すものである。主に①地域との関わり ②他学年との交流である。①においては、学区にあるお店を訪れることや、地域にある史跡などの活用、地域の専門的な知識や技術を有する方々からの指導やその成果が挙げられた。②では、挨拶運動や自主的イベントなどの主体的な行動に伴い、本校の目標である「自分たちの学校は自分たちの手でよくしていこう」という姿勢が見られた。今後も活動を充実させ、本校の強みを発揮し、大人も子供も地域の一員として学校に関わりながら達成感を感じ、愛着をもって地域にも貢献する姿を目指していく→ウェルビーイングの実現へとつなげていきたい。

説明を受け、委員からは以下の発言があった。

・地域とのやりとりが豊富で、充実していると感じた。(小山委員)

・学校掲示を見て、小山委員と同じく、地域と関わる活動の充実を感じた。(松本議長)

・地域交流では、言葉だけでなく体感することが印象に残り、事柄の理解に直結し、教育の発展へとよりつながっていく。(松田会長)

・地域においては、防災訓練の参加を募るなど地域行事との関わりが増えれば、様々な体験ができ、お互いにとってよい形となる。強制ではなく、自主的に参加することが望ましい。(大澤委員)

・今泉委員の働きかけにより、地域の方との交流が増えている。こういったよい刺激により子供たちが生き生きし、普段集中できない子も変化する。野外活動や修学旅行を含め、外での体験を学校に持ち帰り、生かすための工夫や知恵が大切だ。(校長)

・学校の強みを有効に生かすための具体的な手立てを御提案いただけたら幸いである。地域との交流は子供たちの充実だけでなく、地域の紹介にもなり、子供たちの関心も広がるのではないかと。(CS担当佐野)

その他報告事項等

CS担当佐野から、追分小学校運営協議会自己評価の実施について説明があった。

司会から、次回会議は、2024年2月19日(月)午後1時30分から追分小学校会議室で

開催する旨の報告があった。